

「アフリカの世紀」が始まっている！



今年の夏はアフリカに焦点が当たりました。最南端にある南アフリカ共和国でのワールドカップ。当時の熱狂はすでにさめていますが、ガーナがベスト8に残るなど、出場したアフリカのチームの強さもTV画面から伝わってきたものです。

人種差別の懸案を乗り越え、世界的な行事を開催できるまでになった同国では、陰にマンデラ元大統領の熱い思いがあったと聞いています（その模様は「インビクタス」との映画にもなっています）。27年間の投獄に耐えた強力な意思とリーダーシップが行事の成功を導く一因となっていることに間違いはないでしょう。

そんなマンデラ氏には、心の支となった一人の日本人がいました。氏は長い投獄生活の中で、希望の灯をともし言葉に出会った、といいます。それは池田SGI（創価学会インタナショナル）会長の書かれたものでした。出獄し来日した氏は、多忙なスケジュールのなか、真っ先に池田氏のもとを訪ねたのです。二人の最初の出会いとなった信濃町の聖教新聞本社前の広場では、未来を担う500人の若者が“平和の闘士”を歓迎しました。マンデラ氏は後日語っています。「500人の青年たちに歓迎してもらった。日本で最も感動した一日だった」

その後、池田氏は氏が大統領となってからも、またマンデラ解放の立役者となったデ・クラーク大統領とも懇談しています。

池田氏は今年82歳。50年前、会長に就任した直後のアメリカ訪問で、ニューヨークの国連本部に寄った際にアフリカ代表が演説をしていたのを見て、深い思いをめぐらし「21世紀はアフリカの世紀になる」と提唱しました。以来、アフリカ諸国の精神的な支援にも多大な力を注いできました。各国の指導者との語らい、各国SGIメンバーの激励等々……。

こうしたなか、創価学会創立80周年の今年、15カ国の大使らが一堂に会し、在東京のアフリカ外交団から池田SGI会長に「アフリカ友好記念牌」が贈られたのです。そのときの写真が月刊「グラフSGI」12月号に載せられています。同時にアフリカ各国で躍動する仏教徒のはつらつとした姿も紹介されています。アフリカ大陸40カ国・地域に万を超える仏教徒が誕生している——これは文明史的にも特筆すべき事象と言えるでしょう。かつて“暗黒の大陸”といわれた大地に生命の解放を謳う大乘仏教の光が昇り始めたのです。

私自身、SGIに入会してまもなく50年になりますが、「アフリカの世紀」などというのは、まだ遠い先のことと考えていました。でも、グラフで紹介された2ページを目の当たりにしたとき、驚きと感動を禁じえません。すでに「アフリカの世紀」は始まっている。まさに人類史の新しい夜明けのような気がします。

ついては、アフリカの発展の陰にあったもう一組の日本人夫妻の苦闘にも触れなければなりません。よい機会をみてそのヒューマン・ストーリーをご紹介したいと思います。